

「やってはいけないこと。いってはいけないこと。」

おはようございます。(おはようございます)

気持ちのいいさわやかな月曜日の朝です。

元気に緑の校庭と青い空、白い雲のなかで挨拶できました。6年生元気な声かけをありがとう。これで、1週間また仲良くできそうです…ね。

さて、もう5月も後半。新学期が始まって1カ月以上がたち、新しい教室、新しい先生、新しい友だちにも慣れてきた頃ですね。緊張していた始めのころとは違い、楽しくなるのと同時に、そろそろわがままややりたい放題、いたずらやいじわるも出てきてはいませんか。

毎日午前中を中心に、学校の中を回り授業中や休憩時間の教室の様子を見ていると、いろいろな声が聞こえてきます。

先生の声。子どもの声。楽しそうな声。優しい声。元気な声。小さい声でおしゃべりする声。いろいろ、いろいろ聞こえてきます。

そんな中、最近、耳に刺さるような、悲しい言葉や怖い言葉が聞こえてくるときがあります。「お前なんかあっち行けよ」「しね」「きもいよ」マイナス言葉、とげとげ言葉、悲しい言葉、行ってはいけない言葉。

本当にあっちって帰ってなくていいのでしょうか。本当に死んでしまったらどうすのでしょうか……。

やってはいけないこと、言ってはいけないことは、あるんですよ。皆さんにはそんな言葉は使ってほしくない。桃五の皆さんにはそんなことは言ってほしくないのです。

言ってはいけないことは、絶対に言ってはいけないのです。

ケンカもするでしょう。取っ組み合いもするかもしれません。でも、そんな中でも、人を大切にする、励まし合って、友達を大切にするそんな子になってほしいのです。

そんな気持ちを込めて、今日は「やっていいこと、わるいこと。やらなければいけないこと。」「絶対に言ってはいけない言葉」という話をします。

ずいぶん前に見かけたことです。

先生の家近くの、緑あふれる日曜日の朝の公園。鳥の声もあたりに響いてとてもさわやかな、気持ちのいい朝です。

足の不自由な男の子がお母さんと朝の気持ちのいい道を歩いていました。足の病気でしょうか、うまく歩けない様子で、ゆっくりゆっくり、ちょっと傾くようにして歩いていきます。あしにはころんでも足をけがしたりしないように装具をつけています。転ばないように怪我しないようにお母さんがついていきます。ガチャガチャという音をさせながら、ベビーカーをゆっくりゆっくり押しながら、それでもとってもうれしそうにお母さんの顔を見ながら、ガチャガチャと、でもやっぱり倒れそうになりながらゆっくりゆっくり歩いていきます。ようか。チョコチョコ走り回って元気です。何か楽しそうにおしゃべりしながら、お母さんの後ろに回ったり前に回ったりしながらとっても楽しそうです。

そして、道の反対側を歩いている足の不自由な男の子に気づきました。

じいっと見つめてから、明るい声でこんなことを言ったのです。

「ねえねえお母さん、あのおにいちゃん歩き方がおかしいね。怪獣みたいだね……。」

すると、お母さんは「しいいっ。あのおばさんがこわい顔してこっちを見てるから、そんなこというのやめなさい。」といいながら急いで遠ざかっていきました。

足の悪い子にはこの声は聞こえなかったようです。でも、この子のお母さんは、とてとても、悲しい顔をして、涙を流して男の子の手をぎゅうっと握って抱きしめていました。

幼稚園の子は何気なく、悪気もなく、そして、小さいからよくわからずに気になっていったのでしょうか。それでも、いわれた人にすればとってもつらく悲しいこと。だから、やっぱり言ってはいけないことなのです。

そして、この、幼稚園の子のお母さんの言った言葉、「おばさんがこわい顔をしているか

ら・・・。」この言葉が悲しい言葉なのです。こわい顔しているからやめるのではなく、言
ってはいけないことなのです。そして、小さくて知らなくとも言ってはいけないことは行
ってはしけないのです。それをおかあさんがおしえてあげなくてはいけないのに・・・。

それなのに、こんな言い方をしたお母さんの言葉で、足の不自由な子のお母さんはつらく
悲しい気持ちになってしまったのでしょうかね。

校舎内で教室の前を歩いているときに「うざい。」「きもい。」「しね、ばか。」こんな、と
ても悲しい、とてもこわい言葉が平気で教室の中から聞こえてくるとこの話を思い出します。

友だちに注意されても、うるさい馬鹿、お前なんか関係ねえ・・・。

そんな様子を見ていると、そんな言葉を聞いていると、何だか、とても悲しくなっていま
います。

こんなこともありました。

バスにいつもからだの不自由なおじいさんが乗ってきます。

ゆうっくりしか歩けないので、バスの階段を上がって座るまでにとってもとっても時間
がかかります。

でも、このおじいさんのあとに並んだ人も、運転手さんもだあれも文句を言いません。黙
って笑顔で待っています。運転手さんは、あわてないでいいですよ、座るまで動きませんか
ら、と声までかけてくれます。

ところが、つい先日は、私の後ろに座った人たちが、小さい声でひそひそと、「急いでる
のにこまっちゃうね、さっさとしてほしいね。」「あああ、信号が変わっちゃった…。」とい
っています。小さなひそひそご絵ですけれども、この声は、やっと座ったおじいさんにも、
そして運転手さんにも聞こえたようです。

運転手さんがマイクで、「いいんですよ急がないで、ちゃんと座れましたか。」

でも、おじいさんはしょんぼりとして下を向いてしまいました。

もう一度言いますね。桃五の皆さん。「やっていいこと、やってはいけないこと。」「けっ
して言ってはいけないこと。」「いけないことはいけないのです。そのいけないことを平気で
言ったりやったりしてしまう人がいる。それが悲しいのです。

誰にでもいたずらな気持ちとか、ちょこっと意地悪な気持ちとかは、あるかもしれません。
でも、そのちょこっとのいたずらな気持ちをみんなを集めたら、我慢しきれない『いじわる、
いじめ』になってしまうのです。こうなってしまうたら、一人一人くらい悲しい気持ちにおっ
ことして、生きる元気さえなくさせてしまう悪い力になってしまうのです。

皆さんの中には、こんなこという人、いないですよ。言ってはいけない言葉、ほかにも、
まだまだありそうですよ。

人に迷惑をかけること。人にいやな思いをさせること。そして、そういうことをしてしま
っても、気付きもしない人。そんな人にはなってほしくない。

皆さんには、ひとの気持ちを思いやり、友だちを大切にすすてきな子たちでいてほしい
のです・・・。桃五の皆さん・・・・・・・・。

お話し終わります。

